



東京エレクトロン株式会社  
〒107-6325  
東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー  
Tel.03-5561-7000  
www.tel.co.jp



TELは、東京エレクトロン株式会社の日本および  
その他の国における登録商標または商標です。  
PR3 61-0142



TOKYO ELECTRON

# CORPORATE PROFILE

東京エレクトロン  
会社案内

# 強くしなやかな 社会の実現に向けて

テレビやPC、スマートフォンに使われている半導体は、IoT、AI、5Gの普及とともに社会インフラを支えるものに発展してきました。半導体はいま、私たちの生活に欠かせません。進化を続ける半導体。それを支える製造装置市場も、さらなる成長フェーズに入っています。東京エレクトロンは、世界をリードする付加価値の高い最先端の装置と技術サービスを継続的に創出し、豊かな未来をつくり出していきます。



## CEO's Message



ステークホルダーの皆さまには、平素よりご支援とご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。

昨今の世界情勢を振り返りますと、気候変動による自然災害や、感染症の流行、加えて貿易摩擦や国際的な紛争に代表される地政学リスク、それに伴う人権問題などが、産業や社会、そして人々の生活にさまざまな影響をおよぼしています。一方、このような状況においても経済活動が止まらない、強くしなやかな社会の構築に向けて、ICT(情報通信技術)を強力に実装するとともに、地球環境の保全に向けた脱炭素化など、さまざまな取り組みが進められています。そしてその両立に必要なのが半導体の進化です。

IoT、AI、5Gの普及やあらゆる産業のスマート化、自動運転の展開、また注目を集めている生成AIやバーチャルリアリティ(VR)の実用化など、かつてないスピードでデータ社会への移行が進む中、デジタル技術の活用が一段と広がっています。その根幹を支える半導体においては、さらなる大容量、高速、高信頼性、低消費電力など、技術革新への期待は留まるどころを知りません。半導体市場は、2021年に初の5,000億米ドルを超えましたが、2030年には1兆米ドルを超え、現在の市場の倍以上に成長すると予想されています。そして、当社が参画する半導体製造装置市場も、さらなる拡大が見込まれます。本年度創立60周年を迎えるにあたり当社は、「半導体の技術革新に貢献する夢と活力のある会社」という新ビジョンを掲げました。当社の専門性を生かし、付加価値の高い最先端の装置と技術サービスを継続的に創出することで、中長期的な利益の拡大と継続的な企業価値の向上を目指していきます。そして、企業の成長は人、社員は価値創出の源泉と位置づけ、ステークホルダーとのエンゲージメントを通じて、このビジョンの実現に向けて活動してまいります。

今後とも皆さまの変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長・CEO

河合利樹



# 東京エレクトロンの Mission, Vision, Value

東京エレクトロンの企業理念は、企業として果たすべき使命とその実現に向けて、大切にしている価値観や具体的な行動のあり方などを表す、4つの要素によって構成されています。

## 基本理念

基本理念は、東京エレクトロンの存在意義(Purpose)、社会的使命を定義したものです。企業活動の拠り所となる最も基本的な考え方です。

最先端の技術と確かなサービスで、  
夢のある社会の発展に貢献します

## 経営理念

経営理念は、基本理念を実現するために、東京エレクトロンが大切にしている経営の規範を8つの項目で明示したものです。

### ■ 利益について

社会や産業の発展に貢献すべく、利益の追求を重視し企業価値の向上を目指します。

### ■ 成長について

技術革新に常に挑戦し、事業拡大と市場創出により継続的な成長を図ります。

### ■ 社員について

社員は価値創出の源泉であり、創造性と責任感と強いチームワークで情熱をもって業務に取り組みます。

### ■ 安全と健康と環境について

事業に関わるすべての人々の安全と健康、および地球環境への配慮を第一に考えて行動します。

### ■ 事業分野について

エレクトロニクスを中心とする最先端技術分野において、高品質な製品を提供し市場をリードします。

### ■ 品質とサービスについて

顧客の満足と信頼を得るために真のニーズを理解し、品質とサービスの向上に努めます。

### ■ 組織について

個々の能力を最大限に発揮し、企業価値を最大化する最適な組織を築きます。

### ■ 企業の社会的責任について

企業としての社会的責任を自覚し、社会から高く評価され社員が誇りを持つ企業であるよう心がけます。

## ビジョン

ビジョンは、基本理念と経営理念に基づき、東京エレクトロンが中長期的に実現したい事業像をまとめたものです。

## 半導体の技術革新に貢献する夢と活力のある会社

本ビジョンは、Creating Shared Value(CSV)\*、「共有価値の想像」の考え方に基づいています。  
\*CSV：企業の専門性を活用して、社会課題を解決することで、社会的・経済的価値を創出し、企業価値の向上と持続的な成長を図るという考え方

## TEL Values

TEL Valuesは、東京エレクトロングループの価値観および社員一人ひとりの心構えや行動規範を明示したものです。

### 誇り

私たちは、自らが誇りをもてる高い価値をもった製品・サービスを提供します。

### チャレンジ

私たちは、世界No.1を目指し、新しいこと、人のやらないことにチャレンジします。

### オーナーシップ

私たちは、オーナーシップをもって、考え抜き、やり抜き、やり遂げます。

### チームワーク

私たちは、お互いを認め合い、チームワークを大切にします。

### 自覚

私たちは、社会の一員としての自覚をもち、責任のある行動をします。

# Technology Enabling Life

企業理念(基本理念、経営理念、ビジョン、TEL Values)を表現したコーポレートメッセージです。



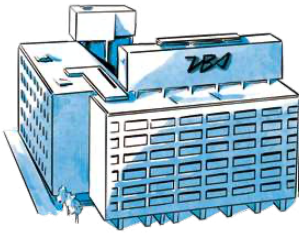
# 1963- 東京エレクトロンの60年の歴史

東京エレクトロンは、半導体産業の歴史とともに歩み、成長してきました。  
 そして、2023年11月11日に、創立60周年を迎えます。  
 創業以来、常に最先端の技術を追い求め、たゆまぬ技術革新を重ね歩んできた60年の歴史を紹介します。

## 1963

技術専門商社としてスタート

- (株)東京放送の出资により、東京都港区赤坂に資本金500万円で(株)東京エレクトロン研究所を設立  
 「半導体こそ産業界を革新する」という信念のもと、久保徳雄と小高敏夫らの若者が、東京エレクトロン研究所を創業。
- 拡散炉、リークディテック、IC製造機器の輸入・販売を開始



## 1965

米国フェアチャイルド社とICテスタの代理店契約

## 1968

米国サムコム社との合併会社テル・サムコム(株)を設立し、拡散炉の国内生産を開始



## 1970

テル・サムコム(株)で拡散炉の完全国産化へ

## 1978

「(株)東京エレクトロン研究所」から「東京エレクトロン(株)」へ商号を変更

## 1976

テル・サムコム(株)が世界初の高圧酸化装置を開発

## 1980

東京証券取引所市場第二部に上場

## 1984

東京証券取引所市場第一部に指定替え

## 1994

グローバル化元年：欧米での直接販売・サポート開始

1990年代からはサービスや製造を担う会社を設立するなど国内グループ体制を強化。加えて、1980年から開始した海外進出が1990年代に本格化し、成長し始めた世界市場で直接販売・サポートする体制の構築を進め、世界各国に現地法人を設立しました。この頃から世界を舞台に活躍する会社として成長していきます。

## 1991

半導体製造装置メーカー売上高世界ランキング1位(1989年から3年連続)  
 1986年より海外への輸出を開始し、1989年には半導体製造装置メーカー売上高世界ランキング1位を獲得しました。

## 1990

フラットパネルディスプレイ製造装置市場へ本格参入

## 1986

半導体製造装置の輸出を開始

## 2002

産学共同の研究開発推進支援プログラム(Albany NanoTechプログラム)に参加



## 2005

第10回ディスクロージャー表彰を受賞(1999年に続き2度目)

## 1999

東京証券取引所第一部における業種変更「商業」から「電気機器」へ

## 2007

人材育成の社内機関「TEL UNIVERSITY」を設立

## 2013

米国Applied Materials, Inc.との経営統合契約を締結(2015年解消)

## 2015

新生TELとして再出発(ビジョン、中期経営計画の策定、コーポレートロゴ刷新)  
 2015年、グローバル水準の収益力を目指した中期経営計画と財務モデルを策定し、新たな一歩を踏み出しました。



## 2018

トムソン・ロイター(現リフィニティブ)社による「Top 100 Global Tech Leaders」に選出



## 2016

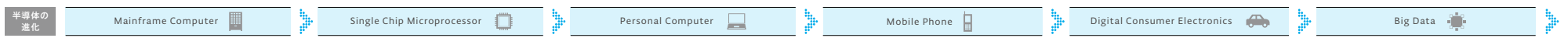
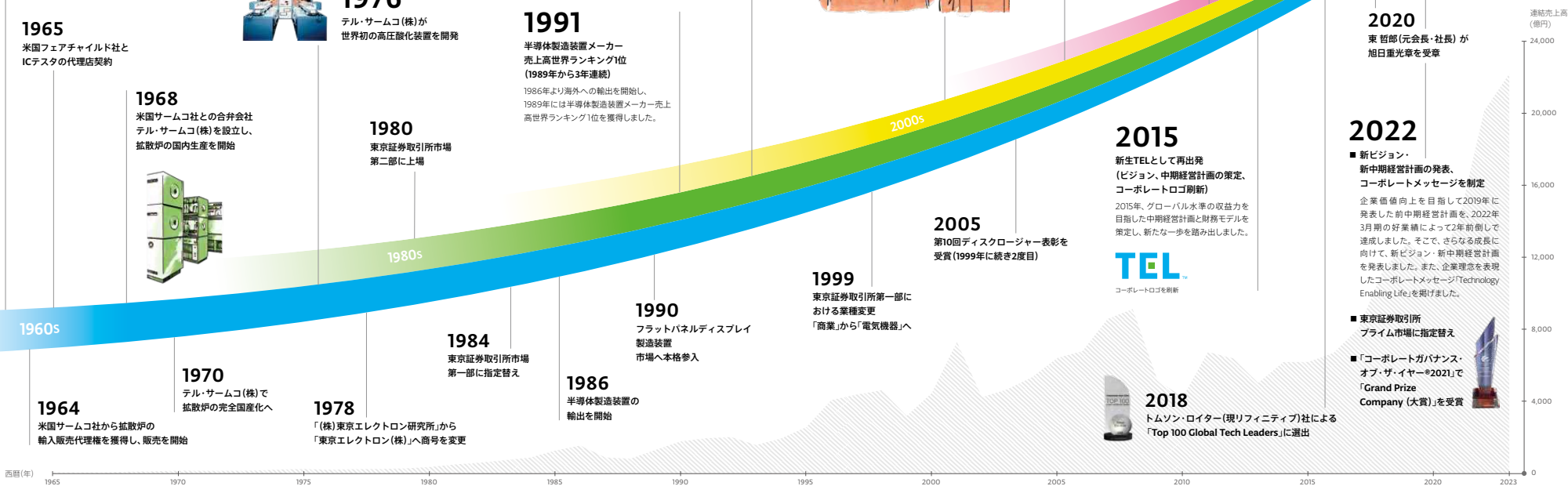
内閣総理大臣賞を受賞(2003年に続き2度目)

## 2021

「第2回ROESGランキング(2020年度版)」国内ランキングで首位

## 2023

- 「半導体の人材育成と研究開発に関する未来に向けた日米大学間パートナーシップ(UPWARDS)」に参加
- Institutional Investor誌の「All-Japan Executive Team Ranking」(ベストIR企業ランキング)で「All-Star」に初選定

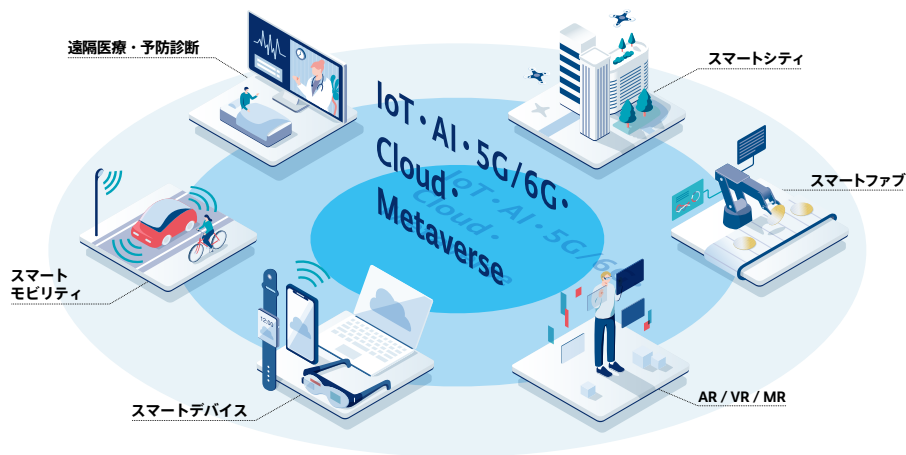






## 東京エレクトロンがつくる未来

東京エレクトロンは、半導体を「つくる」ための装置の開発、製造・販売、技術サポートまでをおこなっています。創業以来、約60年にわたり培ってきた技術や知見を礎として、これからも「夢のある社会の発展」に貢献していきます。

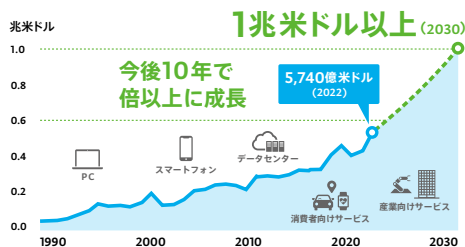


### 半導体の市場規模

半導体は今や、電子機器に搭載されるのみならず、多様なアプリケーションを支えるデータセンターや、5G・6Gインフラに不可欠な存在となっています。そして、VR、自動運転、ChatGPTに代表される生成AIなど、大規模な計算を必要とするアプリケーションが今後も広がりが、その重要性は一層増しています。それに伴い、半導体の市場規模は、2030年には現在の倍以上となる1兆米ドル以上に達すると予測されており、半導体のさらなる進化に向けて、当社が果たすべき役割は、ますます高まっています。

### 半導体市場の展望

出所:1990-2022 (WSTS) / 2023-2030 (IBS, June 2023)



### 持続可能な社会の発展を目指して

社会のデジタル化と脱炭素化を両立させるため、サプライチェーンイニシアティブ「E-COMPASS」を立ち上げました。サプライチェーン全体で、製品の稼働時における環境負荷低減などに取り組み、地球環境保全を推進しています。

**E-COMPASS**  
Environmental Co-Creation by Material, Process and Subcomponent Solutions

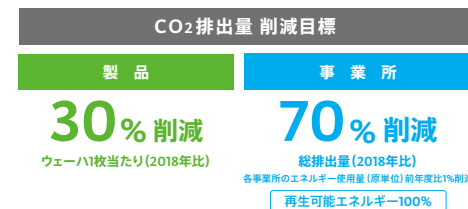
半導体	製造装置	事業活動
デバイスの高性能化と低消費電力化	装置のプロセス性能と環境性能の両立	事業活動全体におけるCO <sub>2</sub> 排出量削減

### 東京エレクトロンの中長期環境目標

製品や事業所における環境への取り組みを強化すべく、2030年までの中期環境目標を下図のとおり設定しています。また、長期目標としては、温室効果ガスの実質排出量をゼロとする「ネットゼロ」の実現を掲げています。スコープ1、2\*を2040年までに、スコープ3\*\*を2050年までに達成することを目指しています。

\*スコープ1&2: 自社の事業活動における電力などのエネルギー使用による排出  
\*\*スコープ3: 販売した装置の使用や廃棄、資材の購入や物流などにおける排出

中期目標(2030年)



長期目標(2050年)

温室効果ガス実質排出ゼロ  
**Net Zero**



# Best Products、 Best Technical Serviceを 提供するために

データ社会への移行が加速し、半導体の用途が拡大する中、製造装置に対するお客さまの要望もますます多様化・高度化しています。東京エレクトロンは、革新的な技術開発に加え、それを支える「確かなサービス」を大切にしています。お客さまの価値創造に寄与し、唯一無二の戦略的パートナーとなることを目指し続けます。



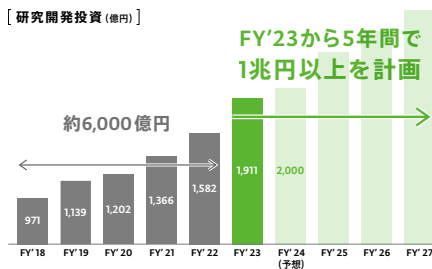
## 東京エレクトロンの事業展開



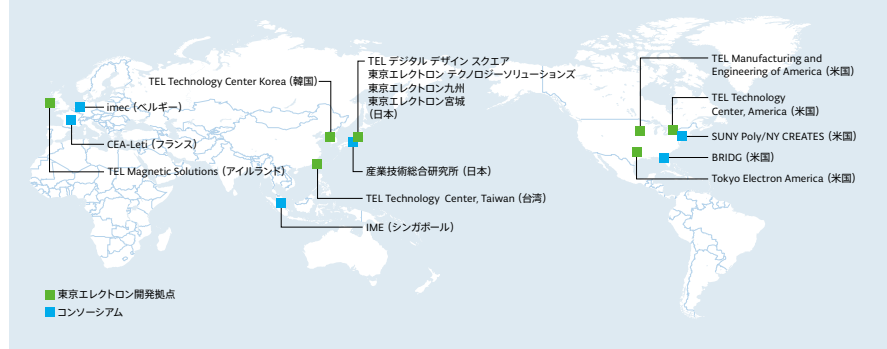
## 研究開発

半導体は、社会インフラの中核を担うものとして、さらなる技術進化が期待されています。今まで以上に大容量、高速、高信頼性、低消費電力な半導体が必要とされる中、付加価値と競争力の高い製造装置をタイムリーに提供するためには、次世代を見据えた先端技術開発が必要不可欠です。

[ 研究開発投資 (億円) ]



## 研究開発拠点紹介



## 将来の成長を見据えた積極的な設備投資



### TEL デジタル デザイン スクエア

2020年11月開設(北海道札幌市)

DX活動の本拠地として開設された、機能性、デザインともに先進的なオフィスでは、ナノメートルレベルでの半導体製造に求められる最先端ソフトウェア技術の開発をおこなうとともに、DXに必要な人材の育成や獲得に努めています。



### 宮城技術革新センター

2021年9月竣工(宮城県大和町)

宮城技術革新センターでは、数世代先を見据えた装置技術と生産技術を創出するための研究開発を推進しています。顧客トレーニングエリアやラボエリアでは社内外のコラボレーションを促進し、半導体製造技術の発展に向けた挑戦が続けられています。



### 新開発棟

2023年7月竣工(山梨県重崎市)

東京エレクトロン テクノロジソリューションズが開発・製造している製品群は、半導体の線幅がより小さく、また多様化・複雑化する中で、技術革新の要として繰り返しおこなわれるパターンニング技術の進化とともに、大きな成長が見込まれています。新開発棟の竣工により技術開発力をさらに強化し、市場とお客さまの求める機能を備えた製品をタイムリーに提供していきます。

### 新開発棟

新生産・物流センター

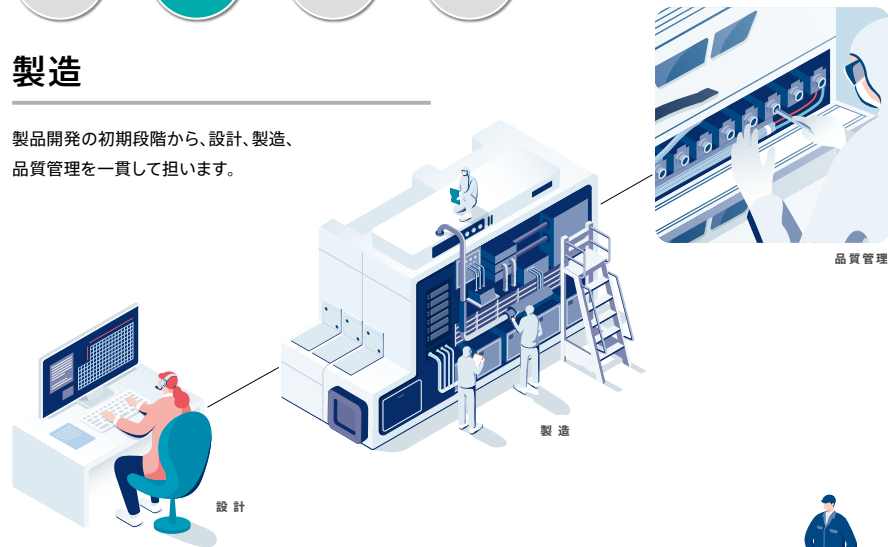
- 熊本県合志市 (2025年夏竣工予定)
- 宮城県大和町 (2025年春竣工予定)
- 岩手県奥州市 (2025年秋竣工予定)





## 製造

製品開発の初期段階から、設計、製造、品質管理を一貫して担います。



当社は主に日本国内の製造子会社で装置を開発、製造しています。装置の設計、製造、品質管理を一貫して担えることは当社の大きな強みです。それにより、お客さまの技術ニーズを開発初期から考慮して、タイムリーに高品質な製品を提供していくことが可能になります。また、半導体の高機能化に伴い、お客さまからの要求が高度化している中、より高品質な装置を生産するため、全社的な生産改善活動を10年以上推進しています。この活動は、効率を阻害するあらゆるロスや無駄を徹底的に排除し、生産効率を高めるとともに、働く社員の考え方や行動を変えていくことを目的としています。

### 生産部門の役割

- **受注設計**  
詳細な技術ニーズに合わせて装置の仕様を設計
- **製造工程の設計**  
開発された装置を品質良く、高効率で製造するための工程設計
- **量産製造**  
多くの高品質な装置を計画的に製造



## 販売

営業は、お客さまのニーズやビジネス動向から、どのような装置や技術が求められているのかを的確かつ迅速に把握することからスタートします。そして、当社の強みや専門性を生かし、お客さまの価値創造に寄与する最適なソリューションを提案します。お客さまとの強固なパートナーシップのもと、グローバルフィールドでは日々、熱い営業活動が繰り広げられています。



## 技術サービス/サポート

常に変化するビジネス環境において、当社は、Best Technical Serviceを継続的に追求するため、世界中のお客さまに満足いただける技術サービス/サポートの提供に努めています。同時に、時代の変化や多様化するお客さまのニーズを先取りし、グローバルにサポートできる体制を整えています。

### 多様なニーズに応える各種サービス

- 小口径(200mm含む)新規装置販売
- 中古装置販売、調達、保証、トータルサポート
- 純正のスペアパーツおよび部品リペアの提供
- エンジニアリングサービス/サポート
- 既存装置のアップグレード



装置納入前後の技術サービス/サポートをフィールドソリューションと呼んでいます。装置納入からアフターメンテナンスまで一貫した技術サービス/サポートを提供することで、装置の高稼働率を実現しています。業界最大の装置出荷台数(約88,000台)を生かしたビジネスを展開するとともに、最先端のAIやデジタル技術、ナレッジマネジメント\*ツールを駆使し、サービスのさらなる効率化を進めています。

\*ナレッジマネジメント:個人がもつ暗黙知を企業内で共有することで新たなイノベーションを促し、全体的な生産性を向上させるための管理手法

### デジタル技術の活用

当社では、最新のウェアラブルデバイスを活用し、お客さまの製造拠点からの映像や音声リアルタイムに共有できるリモートサポートシステムを整えています。情報保護、映像送信制限、通話翻訳などの独自機能を加え、より利便性が高まったスマートグラス™を使用し、的確かつスピーディなサポートをおこなっています。また、遠隔保守サービス「TELeMetrics™」では、お客さまに納入した装置と当社サーバーを機密性の高い通信回線で接続し、装置データを分析することで、装置の安定稼働と生産効率向上を実現しています。フィールドエンジニアや製造拠点との円滑な連携のもと、これらの取り組みを進め、付加価値の高いサービスを提供しています。

™スマートグラス:グラス越しに映像やデジタル情報を表示可能なメガネ型のウェアラブルデバイス



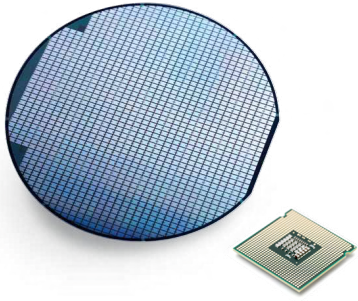




# 世界をリードする技術革新力が 半導体の進化を可能にする

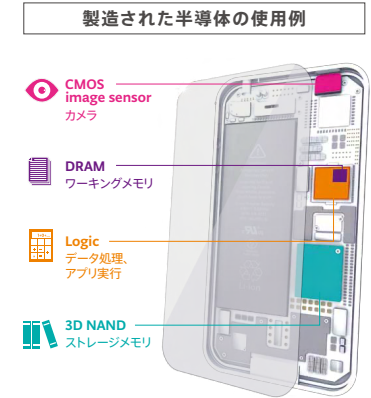
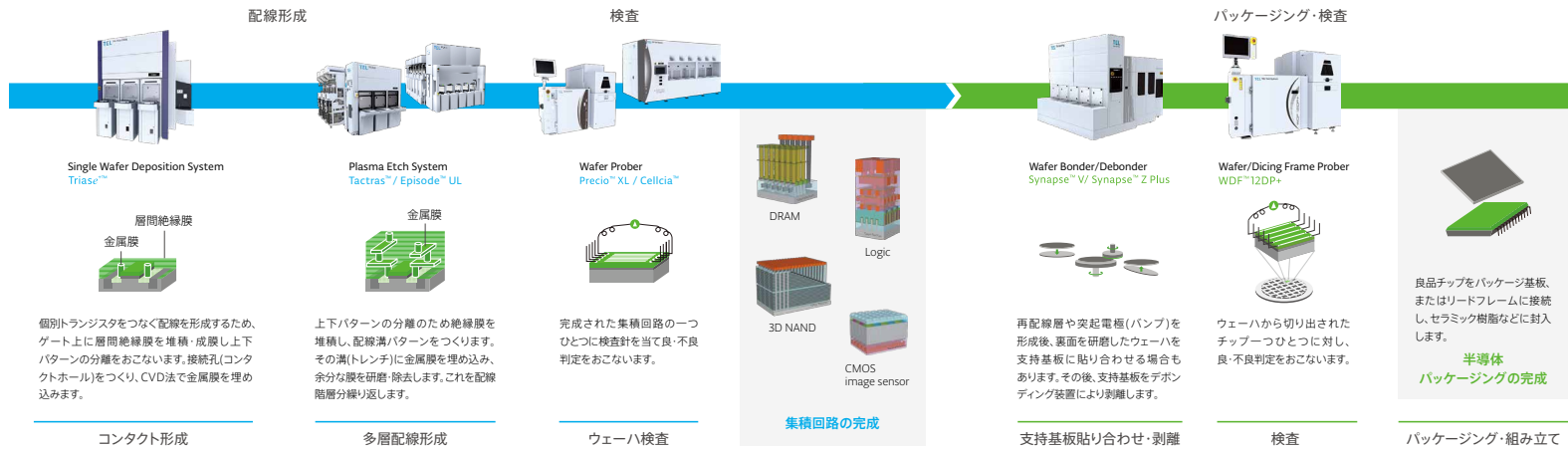
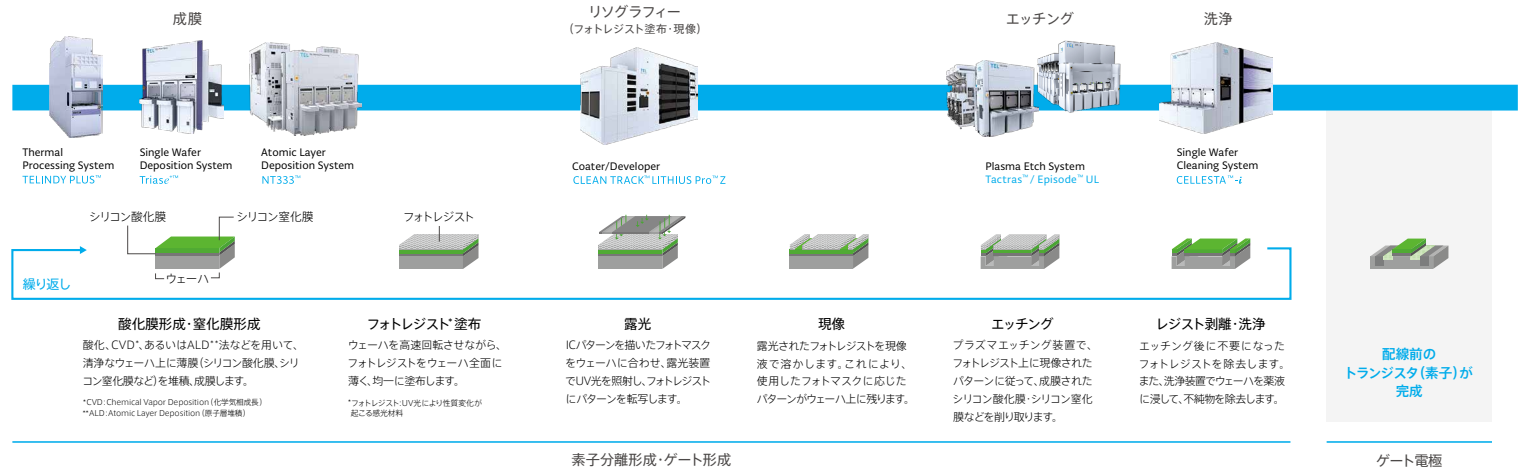
■ ウェーハ処理プロセス(前工程) ■ 検査・組み立てプロセス(後工程)

## 半導体製造装置



半導体は、テレビやPC、スマートフォンなどのデジタル製品の基幹部品です。また、スマート工場、農業、医療、スマートシティなど、あらゆる産業のデジタル化を支えています。半導体に対する技術要求は、さらなる大容量、高速、高信頼性、低消費電力など、留まるところを知りません。

### [半導体製造プロセス]



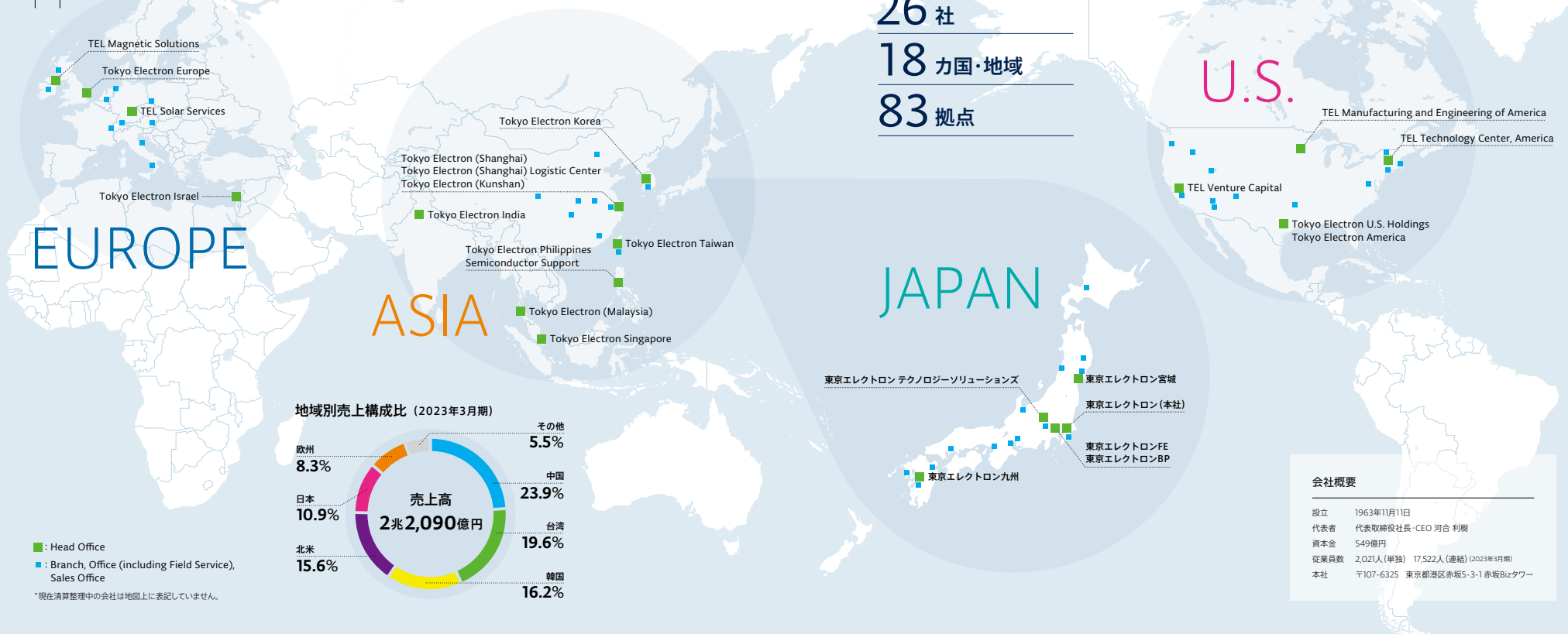


# 世界を舞台にした事業活動と市場をリードする圧倒的な総合力

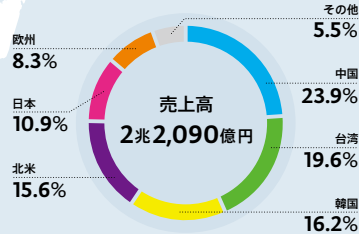
ビジネスの舞台は世界中の国と地域。  
日本、米国、アジア、ヨーロッパの各地に広がる拠点からエレクトロニクス産業や、グローバル社会の発展を支えています。

全世界合計 (2023年4月1日現在)

26社  
18カ国・地域  
83拠点



地域別売上構成比 (2023年3月期)

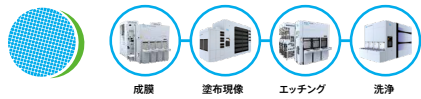


■: Head Office  
■: Branch, Office (including Field Service), Sales Office

\*現在清算整理中の会社は地図上に表記していません。

会社概要

設立	1963年11月11日
代表者	代表取締役社長-CEO 河合 利樹
資本金	549億円
従業員数	2,021人(単独) 17,522人(連結) (2023年3月期)
本社	〒107-6325 東京都港区赤坂5-3-1 赤坂Bizタワー



## 4連続工程に装置をもつ

当社は半導体の微細加工に必要な連続した4つのキープロセスである成膜、塗布現像、エッチング、洗浄の装置をもつ世界で唯一のメーカーです。開発段階より技術ニーズや製品課題を洗い出し、複数工程の相互最適化を実現するソリューションを提供しています。



## 世界シェア1、2位の製品群

当社が扱う半導体製造装置はそれぞれのセグメントで強いポジションをもち、いずれもシェア1位、もしくは2位を獲得しています。このことから、当社の装置を通らない半導体はほぼないと言っても過言ではありません。また、EUV\*露光装置にインライン\*\*する塗布現像装置は、シェア100%となっています。

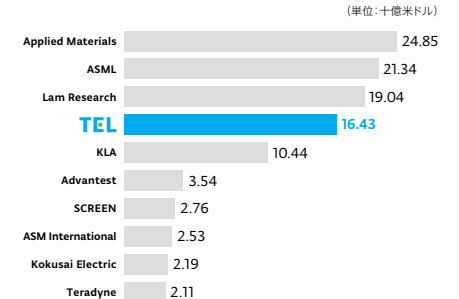
\*EUV: Extreme Ultraviolet=極端紫外線  
\*\*インライン: 露光装置と塗布現像装置を一体化させることを意味する。



## 世界最大の装置出荷数実績 (2023年3月末時点)

これまで当社が世界各地に出荷した装置は業界最大の約88,000台となり、加えて、年間約5,000~6,000台の新規装置がお客さまの工場へと出荷されています。これらの装置には、サービス・パーツ販売、装置のアップグレードなどの大きなアフターマーケットが存在し、大きなビジネスへと成長しています。

## 世界の半導体製造装置メーカー売上上位10社 (2022年)



出所: Technisights Manufacturing Analysis Inc., May 2023



# 東京エレクトロンのサステナビリティ 夢のある社会の発展のために

当社は、マテリアリティ(重要分野)の取り組みや、TEL FOR GOOD(社会貢献活動)を通じ、産業や社会の課題解決や発展、およびSDGsの達成に貢献します。  
「最先端の技術と確かなサービスで、夢のある社会の発展に貢献します」という基本理念を実践することで、中長期的な利益の拡大と継続的な企業価値の向上に努めています。

## 事業を通じて取り組むサステナビリティ

東京エレクトロンでは、重要かつ優先的に取り組むべき以下の4つのマテリアリティを特定し、事業を通じたサステナビリティ活動を展開しています。

### 付加価値の高いnext-generation productsの継続的な創出

研究開発・技術革新への挑戦



製品競争力

### 経営効率向上の追求

生産性向上の推進・品質優先のオペレーション



### 絶対的な信頼関係 唯一無二の戦略的パートナー

お客さまの価値創造への寄与・フィールドソリューション・製品の安全設計・顧客満足度の向上



顧客対応力

生産性向上

経営基盤

事業活動を根底で支える強固な経営基盤

コーポレートガバナンス・リスクマネジメント・情報セキュリティ・コンプライアンス・サプライチェーンマネジメント・人権・健康・安全・人材・環境



## 国際的なイニシアティブへの参画

当社は、さまざまな国際的なイニシアティブへ参画し、事業活動におけるサステナビリティを推進しています。

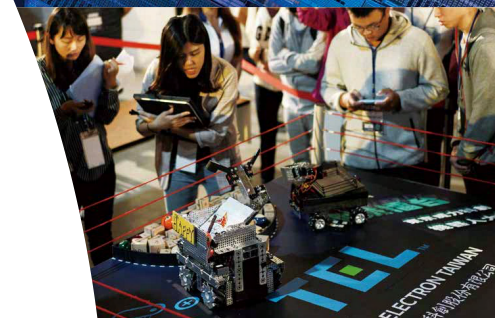
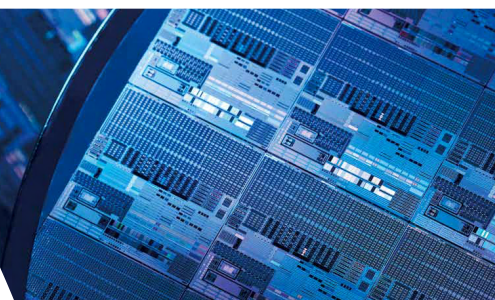


## 外部からの評価

当社のサステナビリティ活動は世界各国の評価機関より高い評価を得ています。



\*1 FTSE Russell (FTSE International Limited & Frank Russell Company)の登録商標。はここに東京エレクトロンを抽出した指標で調査を行った結果、FTSE4Good Index Series組み入れの資格を獲得し、本インデックスの構成銘柄になったことを示します。FTSE4Good Index Seriesはグローバルにインテグレーションされた指標であるFTSE Russellが作成し、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応をおこなっている企業のパフォーマンスを決定するために設計されたものです。FTSE4Good Index Seriesはサステナブル投資のファンダメンタルと他の金融商品の評価、分析に広く利用されます。詳細は右記のウェブサイトをご参照ください。https://www.ftse.com/sustainability/review.html  
\*2 東京エレクトロン株式会社のみがMSCI指数への組み入れ、およびESGスコアの公開、サービスマークまたは商標の使用は、MSCIまたはその関係者による東京エレクトロン株式会社の推薦、推薦またはプロモーションではありません。MSCI指数はMSCIの独占的財産です。MSCI指数の名前およびロゴはここに示した以外の関係者の商標またはサービスマークです。  
\*3 Copyright ©2023 Sustainalytics. All rights reserved. This publication contains information developed by Sustainalytics (www.sustainalytics.com). Such information and data are proprietary of Sustainalytics and/or its third party suppliers (Third Party Data) and are provided for informational purposes only. They do not constitute an endorsement of any product or project, nor an investment advice and are not warranted to be complete, timely, accurate or suitable for a particular purpose. Their use is subject to conditions available at https://www.sustainalytics.com/legal-disclaimers



## 社会貢献活動

### TELFORGOOD™

TEL FOR GOOD(テル・フォー・グッド)は、東京エレクトロンの社会貢献活動を表すブランドネームです。社会における重要性や当社の事業との関連性を考慮し、以下の3つの重点分野を定義しています。事業活動を通じた取り組みに加え、TEL FOR GOODを世界各地で展開しています。

### テクノロジーとイノベーション

半導体やディスプレイの進化において、革新的なテクノロジーによるイノベーションの創出は不可欠です。TEL FOR GOODを通じて創造性を育む学びの機会や、独自性に富んだ研究開発の支援をグローバルに展開します。



### 地球環境の保全

気候変動が深刻化する中、事業を通じた活動に加え、TEL FOR GOODにより、脱炭素社会の構築に取り組みます。また、水資源の保全や生物多様性の維持などに努めるとともに、サーキュラーエコノミーを推進し、地球環境の保全に貢献します。



### 地域社会との共創

雇用機会の創出や地場産業の育成などにより、事業活動を展開する地域の発展と活性化に貢献するとともに、地域に根差したTEL FOR GOODを展開することで地域社会との共創に努めます。また、国際的な人道支援や災害復興などに取り組み、企業市民としての役割を果たします。

